

「第1回 オープン！子ども・家庭大臣室 in お茶の水女子大学」

■開催状況

・日時 平成19年11月9日(金) 10:30~12:15

・場所 お茶の水女子大学(東京都文京区)

・出席者

【お茶の水女子大学】 郷 通子 学長
柴田文明 副学長
羽入佐和子 副学長 他

【内閣府】 上川陽子 内閣府特命担当大臣(男女共同参画)
竹林義久 大臣官房審議官
塚崎裕子 男女共同参画局推進課長 他

■次第

(1) 大学概要・女性研究者支援プログラム等について



ワーク・ライフ・バランス社会実現の重要性を訴える大臣

(大臣より)

- ・女性研究者の支援を通じ、学長が先頭に立ってワーク・ライフ・バランスに取り組んでいただいていることは、日本社会全体のワーク・ライフ・バランスの実現に向け、大変心強いことだと感じています。
- ・今後は、他大学との連携を強化するなどして、積極的に他大学も巻き込んでほしいと思います。

(2) 女性研究者との懇談



女性研究者の声に耳を傾ける大臣

(女性研究者より)

- ・COSMOS(女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築)(別紙参照)により、RF(Research Fellow)及びAA(Academic Assistant)の研究協力並びに子育て支援を受けることができ、育児をしながらでも効果的・効率的に研究をすることが可能になりました。
- ・ワークタイム「9時－5時」体制の実現により、育児にも十分な時間をかけられるようになりました。
- ・AAの立場からすると、任期付きの勤務となるので、将来のキャリアに不安もあります。

(大臣より)

- ・女性研究者にとって、研究活動に力を入れるキャリア形成の時期と子育てのステージが重なり、かつどちらも高齢になりがちですが、仕事と子育ての両立は難しいと感じていますか？
 - (郷学長)理系の場合は、最短でも26歳頃で博士号を取得することになり、その頃に子育てもするのは困難を伴います。生物学的にも、キャリア形成期と子育て期とは重なってしまいがちなので、そうしたステージにある女性を支援することが重要です。
- ・COSMOSのような支援がなかった頃、女性研究者はどうしていたのですか？
 - (郷学長)私より10歳上の世代は独身研究者が多かったように思います。最近の子育てをしながら研究する女性も多いですが、子育ての厳しさに直面し、研究を止めてしまう方が多いように思います。

・女性研究者をはじめとする卒業生の就業と家庭生活の状況等について、追跡調査をお願いしたいと思います。

→(郷学長)進めてみたいと思います。

・COSMOS のような女性研究者に対する支援について、男性の先生方の反応を知りたいと思います。また、COSMOS 導入により男性の先生の意識や行動に変化がありましたか？

→(柴田副学長)理系研究者の世界は典型的な男性社会なので、女性研究者が半数を占める本学に来た当初は違和感がありました。しかし最近では、女性研究者がアカデミックな分野で主要ポストを占めることがそれほど珍しいことではなくなっており、男性の意識も変わりつつあると思います。組織改革の一環として、教授会のような会議を午後5時には終わらせるようにするなど、行動の面でもポジティブな変化が出てきました。

・女性研究者の配偶者からは、どういった支援がありましたか？

→(女性研究者)①家事をきちんと分業しています。②家事があまり得意ではないですが、手伝おうという意識はもっているようです。③特に海外出張等で家を離れる際は、育児を分担しています。

・COSMOS のような支援プログラムがより多くの女性研究者に利用可能なものとなるようにしてほしいと思います。

・COSMOS のような支援プログラムが、学内全体にどういった影響をもたらしたかを考えなければならないと思います。ワーク・ライフ・バランス実現のためには、大学全体のマネジメント、意識が変わっていくことが重要です。

(3) 学生との懇談

(学生より)

・将来仕事と育児を両立していきたいと考えていますが、そのためには男性側の協力が不可欠だと思います。

・女性が仕事と育児を両立していくためには、多様な就業形態を認めていくことが必要であり、国としても多様な働き方についての情報を発信するなど、支援していくことが重要であると思います。

(大臣より)

・女性が仕事と子育てを両立するためには、男性が育児に積極的に参加していくことが必要です。しかし現状では、男性の育児参加は限られているように思います。国としては、男性の育児休業取得率を10%とすることを目標として取組を進めており、今後も男性を含めた仕事と子育ての両立支援に取り組んでいく方針です。

- ワーク・ライフ・バランスの重要性を理解し、多様な働き方を真剣に考える企業が増えています。国としては、子育て支援に積極的に取り組む企業に対し、「くるみんマーク」を与えるなどして、積極的に支援を行っています。今後は、こうした先進的な取り組みを社会全体に広げていくとともに、きめ細かな支援を行っていく必要があります。
- 皆さんが将来社会に出たときには、それぞれの立場から皆さんがパイオニアとして思いを発信し、「対話と協働」を進めて頂きたいと思います。



意見交換の後、学生と握手

(4) 保育施設「いずみナーサリー」、歴史資料館、大学講堂視察



子どもたちとお話する大臣(いずみナーサリーにて)



学園祭の準備をしていた学生たちとお話する大臣(大学講堂にて)

■大臣からのメッセージ ～お茶の水女子大学の視察を終えて～

私は就任当初からできるだけ現場に足を運び、生の声を聞きたいと申し上げてきましたが、それを具体化したのが本日の「オープン！子ども・家庭大臣室」です。

女性がプロフェッショナルなキャリアを向上できるよう、サポートしていく体制を整備することは大変重要です。本日お話を伺いました COSMOS というプログラムは、まさにそうしたサポート体制として、女性研究者の仕事と生活の両立を支えていることがよくわかりました。また、このプログラムは、大学全体の運営にも大きな影響を及ぼしてきていることがわかりました。働き方の改革を目指した先進的な試みとして私としても自信をもって紹介できます。こうした取組みは、他の大学をはじめ、様々な職場においても大いに参考となるものです。今後男女共同参画社会が定着していくための発信基地となっていきたいと思います。

国としては、近日中にワーク・ライフ・バランスの憲章や行動指針の策定により今後の方向性を示すことにしています。こうした施策を通じ、一人一人が希望を実現できる社会を目指してまいります。

最後に、このような有意義な機会を設けてくださった郷学長をはじめとするお茶の水女子大学の皆様に、心より感謝を申し上げます。

■関連情報

お茶の水女子大学: <http://www.ocha.ac.jp/>

COSMOS: <http://ocha-cosmos.com/xoops/modules/tinyd0/index.php?id=2>